

新型インフルエンザへの事前準備と大流行発生時の緊急対応計画に関する研究

【分かっていたこと】

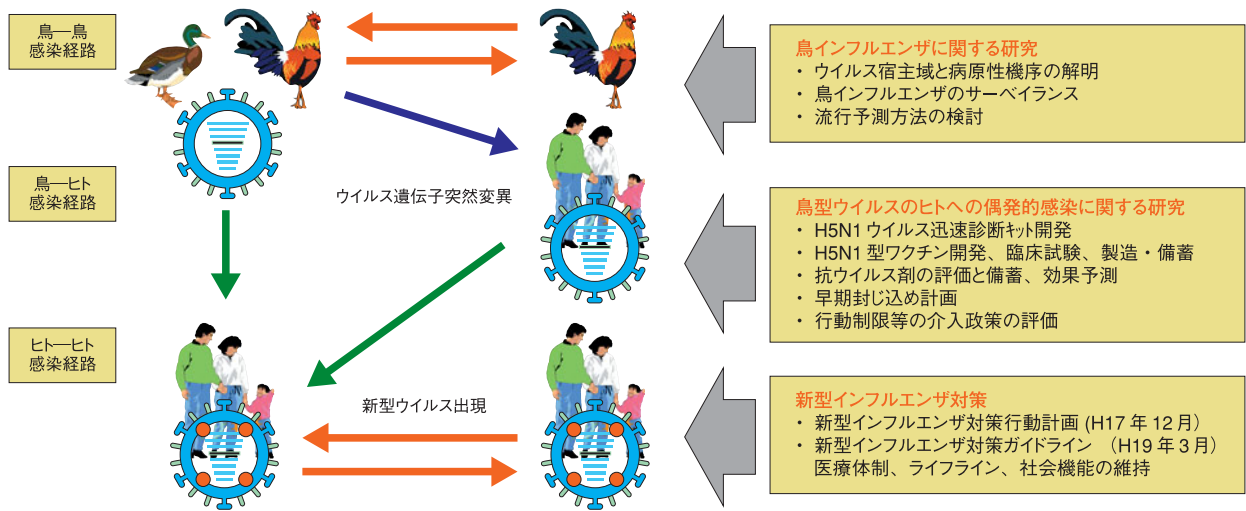
20世紀には3回の新型インフルエンザ大流行があり、数百万～数千万人が死亡しました。現在、H5N1型高病原性鳥インフルエンザが世界的に流行しており、人への感染も増えています。H5N1型鳥ウイルスは徐々にヒト型へ変化しつつあり、強い病原性を持った新型インフルエンザの出現が心配されます。

【今回の成果】

新型インフルエンザ対策ガイドラインを作成するため、その基となる実験・調査等の研究を包括的に行いました。

【今回の成果の意義】

本研究の成果や最新の知見を基に、新型インフルエンザ専門家会議が「新型インフルエンザ対策ガイドライン」を作成しました。新型インフルエンザの大流行による健康被害の最小化と、社会・経済機能の崩壊防止が期待されます。



<新興・再興感染症研究>

C型肝炎の治療とキャリアからの発症予防に関する基盤研究

【わかっていたこと】

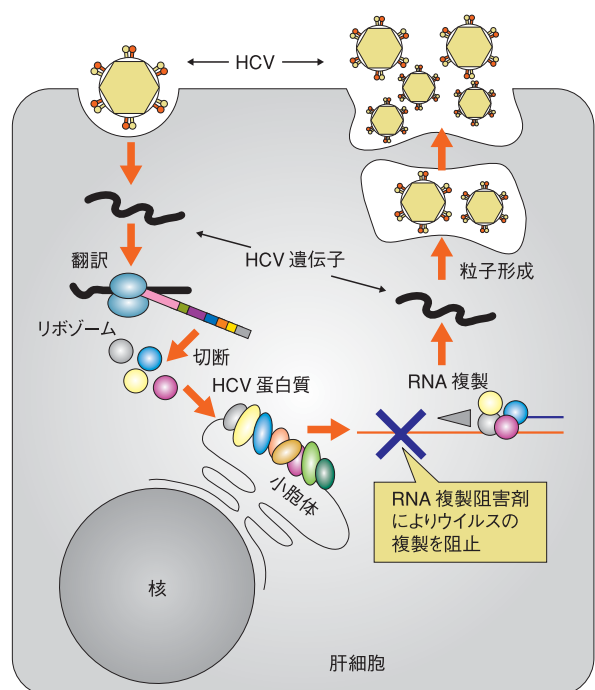
C型肝炎ウイルスキャリアは我が国には100～200万人が存在すると推定されます。輸血用血液のスクリーニングが可能となり新たな感染は激減しました。しかし、感染後10～30年という長期間を経て肝臓癌に進展することがあるため、キャリア対策が重要と考えられています。インターフェロン、リバビリンによる現在のC型肝炎治療法の有効率は約50%であり、新たな発症予防、治療法の開発が待望されています。

【今回の成果】

C型肝炎ウイルス（HCV）が肝臓で増殖する過程のうち、ウイルス遺伝子の複製メカニズム等を明らかにし、ウイルスRNAの複製を選択的に阻害する薬剤を同定しました。

【今回の成果の意義】

HCVが増殖する仕組みを解明していくことにより、新たなC型肝炎治療薬の候補や予防法が見出されるようになりました。



明らかにされつつあるHCVのライフサイクルと阻害剤の抗HCV作用

<肝炎等克服緊急対策研究>